

会議録（要点筆記）

会議名	第6回 米原市総合教育会議
開催日時	平成28年12月21日（水） 16時30分～18時00分
開催場所	米原市役所山東庁舎 2階 会議室 2 AB
出席者および欠席者	<p>構成員</p> <p>平尾道雄市長、山本太一教育長、稲村邦夫教育委員長、河居郁夫教育委員、本庄通子教育委員</p> <p>事務局</p> <p>田中博之教育部長、藤木利彦学校教育課長、仲谷良徳教育総務課長、鏑田正広政策推進部次長、田邊教育センター所長、藤岡教育総務課課長補佐、小寺真司政策推進課課長補佐ほか担当職員 2人</p> <p>傍聴者</p> <p>なし</p>
議題	<p>(1) 米原市教育大綱・第2期米原市教育基本計画の策定について</p> <p>(2) 今後の教育施策について</p>
審議経過	<p>事務局</p> <p>市長</p> <p>1 開会 (事務局から開会あいさつ)</p> <p>2 市長あいさつ</p> <p>・本日は、教育委員の皆様におかれましては、お忙しいところ、米原市総合教育会議に御出席をいただき誠にありがとうございます。また、皆様には日ごろから米原市の教育行政の推進に多大なる御尽力を賜っておりますことに対しまして心から感謝を申し上げます。さて、昨日閉会いたしました12月議会におきまして、米原市教育大綱および第2期米原市教育振興基本計画の承認をいただきました。</p> <p>とりわけ、教育大綱につきましては、昨年8月から、この総合教育会議で計4回にわたり、米原教育の目指すべき方向について熱心な御議論をいただき、本市の教育政策を貫く理念を「ともに学び、ともに育つ、学び合いのまち まいばら」とし、米原教育が目指す人間像を「自分もひと大切にし、地域を誇る人づくり」と定めていただいたところでございます。この理念のもと、学校、家庭、地域がつながり一体となって、自然と歴史・文化に包まれた米原ならではの教育環境の中で学び合い、育ち合うことによって、自己を大切にし、かけがえのない存在として実感できる自尊感情・自己肯定感を育成するとともに、互いを認め合い、支え合う確かな関係を育て、ふるさと米原に誇りと愛着を持ち、未来の米原を切り拓く人づくりを推進していきたいと考えております。さて、本日は、第6回目の総合教育会議となります。策定いたしました教育大綱および教育振興基本計画に基づき、これから展開していく教育施策につきまして、この後、事務局から御説明させていただきますので、忌憚ない御意見を賜りますようよろしく</p>

<p>事務局</p>	<p>お願いします。</p> <p>3 協議事項</p> <p>(1) 米原市教育大綱・第2期米原市教育振興基本計画の策定について</p> <p>・米原市教育大綱・第2期米原市教育振興基本計画については、米原市議会第4回定例会で議決をいただきました。これまでから、この総合教育会議で大綱にかかる議論をしていただいておりますし、教育振興基本計画についても随時御説明をさせていただいておりますので、簡単に説明をさせていただきます。まず、この計画につきましては、教育基本法第17条第2項の規定に基づく計画でありまして、平成29年度から5か年の計画です。計画冊子の1ページには、この計画の策定に当たりまして市長が定めます教育に関する大綱をこの計画の基本理念、基本目標に位置付けまして両者を一体的に策定していくということを記載しております。3ページからの第2章では、教育を取り巻く現状と課題について、アンケート調査や各種データを分析いたしまして課題の抽出をしております。16ページからの第3章は、教育大綱の部分です。基本理念を「ともに学び、ともに育つ、学びあいのまち まいばら」サブタイトルを「自分もひと大切にし、地域を誇る人づくり」としてしております。17ページ、18ページについては、本市の教育政策や目指すべき基本的な方向性として、5つの基本目標を定めております。これに続く施策を体系的にまとめまして、20ページ以降の第4章でそれぞれの項目ごとに施策の方向を示しております。この中の特徴的なものとしては、21ページの学力向上のところで外国語教育でありますとかICTの機器の活用、また、25ページでは、子どもの体力低下への対応として、学校における体育指導の充実でありますとか、子どもの健康増進プログラム、また、28ページでは、家庭の教育力の向上、31ページで地域による学校支援の取り組みを記載しております。46ページのところでスポーツにつきまして、スポーツ発信拠点の設立でありますとか、特色を生かしたスポーツの推進としまして、ホッケーの振興などを記載しております。また、48ページの国体に向けた環境整備などをあげております。そして、53ページからの第5章では、計画の推進について横連携や情報発信に努めるほか、評価指標を踏まえた施策の評価を実施しながら、事業の改善に取り組みまして実効性の高い計画の推進に取り組むこととしております。また、計画の策定にあたりましては、滋賀県立大学の大橋先生をはじめ、15人の委員による審議会で議論を重ねていただきまして、答申の際に御意見をいただいております。少し説明をさせていただきます。76ページをお願いします。答申にあたって6項目の意見をいただいております。1つ目は米原市の将来を担う子どもたちが、これから変化の激しい社会を心豊かでたくましく生き抜く力を身に付けられる教育の推進に取り組んでいただきたいということで、審議会の中では子どもことを第一に考えた取組をとというお願いがありました。2つ目については、学校・家</p>
------------	--

	<p>庭・地域など子どもたちに関わる者が、それぞれの役割を自覚し連携・協働を図りながら地域全体の教育力の向上に努めていただきたいということで、学校だけとか家庭だけとかということではなくて、地域全体の教育力を高められるような取組をお願いしたい。特に若い委員さんからは、あまり家庭、家庭と言わないで欲しいというような御意見もございました。3つ目は、安全・安心な教育環境のもと、一人一人の子どもが大切にされ、必要な支援や配慮を受けながら、自らの可能性を伸ばせる学校園づくりを進めていただきたいということで、とにかく学校は安全・安心を優先して欲しいということと、子ども達の可能性を伸ばして欲しいという御意見がありました。4つ目としまして、市民が生涯にわたって生き生きと暮らせるよう、学びのきっかけづくりを進めるとともに、学びを地域に還元できる学び合いのまちづくりを推進していただきたいということで、ここは、生涯学習についてなんですけれども、皆さんからは、学ぶきっかけがないとい御意見がたくさんありました。5つ目につきましては、米原市の豊かな自然・歴史・文化や地域人材を活かした施策に取り組み、ふるさと米原への誇りと愛着を育てていただきたいということで、子ども達は米原の良さに気付いていないので、良さを気付かせてあげないといけない。ただ、ふるさと教育によって子ども達に米原市に残って欲しいという御意見もありましたけれども、その一方で、都会で頑張るといことも親としては頼もしく思えるというような御意見もありました。6つ目です。市民の学習意欲を高めるとともに米原市の魅力を市内外に浸透させられるよう、教育活動の情報を積極的に発信していただきたい。米原市には良いものがあるのに情報発信が十分にできていない。そういった意見につきましてはパブコメなどでもありました。また、文化活動などをされている方は、市民から評価が低いという評価結果が出ておまして、その結果を受けまして、活動の様子などをもっと積極的に発信すべきというような御意見をいただいております。これらの御意見を念頭に置きながら、本市教育の取り組みを進めていきたいと思っております。</p>
市長	<ul style="list-style-type: none"> ・只今の説明について御意見を申し上げます。
教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・最近気になっていることとして、2時50分に8・3運動の呼びかけとして、子ども達が下校するという放送を流しているのですが、それはいいことだと言って下さる方と、逆に市教育委員会の方へ直接、子どもを見守るのは親の責任であるという苦情を言うてくる方もおられる。計画冊子76ページの2番目の学校・家庭・地域など子どもたちに関わる者の連携・協働が足りないということで、もう少しこれからはやっぱり情報発信を上手にしていかなければいけないのかなと思うことが多々あります。それと、大人の学び場の提供も、子どもに関わる

<p>市長</p>	<p>ことも大人としての学びの場でもあるのかなという思いを持っています。もう我々は子育てが終わったから関係がないというのではなく、地域の住民として子どもを見守る、育てるということも新たな学びの場という意識を植え付けられるよう、情報発信の仕方を工夫する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・答申にある「地域全体の教育力の向上」というのはどういうことをイメージしたら良いのか。
<p>教育長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育というのは、親だけが子どもに教育をするのではなくて、地域全体が子どもを守り育てる土壌をつくろうということが、地域の教育力ということであると思う。
<p>市長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・そういうイメージや評価を地域全体で得られないか。例えば、長野県は「長野教育」というように、子どもに対する教育が熱心なまちであるというイメージを持っているところが全国にいくつもある。そういうところに近づこうとすることも必要であると思う。子どもの面倒は親が見るのが当然だという考え方から時代は変わってきていて、社会全体で子どもを支えなければいけないし、子どもの貧困の問題も含めて、しっかりと応援していかないとだめなのではないか。国もようやく奨学金制度を貸付型ではなく、給付型としていく方向にある。米原はこの答申を受けてどのように米原教育を進めていくべきなのか。他の先生方からも御意見をいただきたい。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今長野県の話が出たが、「信州教育」という言い方をされていて、私も若い時から参考にしてきた。長野では、先生は自宅から学校へ通わずに下宿して、寝食を共にして子どもの教育を行っていた。滋賀県は、自分の家を中心にして考えている。信州教育は教員の研修というかそういう体制が違う。地域全体の教育力については、子どもがあるなしに関わらず子どもに関心を持つということがポイントであると思う。昭和50年頃に「よその子もしかる運動」というのをやった。PTAの皆さんとともに自分の子どもだけではなくよその子どもをしかるという運動をよくやっていたわけです。この頃は関心を持たれない、他に転嫁されるという短絡的なものの考え方をする人が増えてきているので、これからの将来を背負う子ども達に対し、答申の3「自らの可能性を伸ばせる学校園づくり」にあるように、教育というのは子ども無限の可能性を引っ張り出すことである。このことを地域の皆さんが考えることが必要である。現状では地域や区長会などの会合の場で子ども教育の話が出てこない。学校の話が出たらよそ事の話のようになる。この辺が今の課題であり、体制をつくり直していくことが必要だと思う。現在、地域支援本部事業を立ち上げているが一部のものとなって

委員	<p>いる。学校がパートナーシップをとって学校の方が主導的に行っていくべきだと思う。コミュニティスクールの全国的な先進事例があるが、この辺が米原市も具体的になってくれば素晴らしいと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私も答申の意見「若い委員さんからは、あまり家庭、家庭と言わないで欲しい」というところがすごく気にかかった。家庭の核家族化も進み、社会が変わっている中で家庭でも精一杯で生活しているので、学校を含めて地域全体で子どもを育てるという認識がまだまだ一般の方に浸透していないのではないかと思う。子育てカレンダーを作って見せていただいたが、子どもを持っているとこだけでなく、いろんな所へ配布して、今日は学校で何があるのかが分かるような仕組みを作っていくようにすることが大事だと思う。
市長	<ul style="list-style-type: none"> ・わがまちの未来を支えてくれる人材をみんなで育てているのだということの普遍的な認識を持つことが必要であると思う。まだまだ個別的なところで留まっている現状がある。小さい時に集団の学びを得た人というのは本当に生き抜く力を持っている。社会全体で地域でということを具体的に米原教育で欲しい。ここを理想としているということ欲しい。今行っている8・3運動は入口だと思う。
教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後児童クラブが今飽和状態である。地域にそういう仕組みができてきたら、子ども達の中に自分は地域のおじさんおばさんに世話になっているという意識が生まれる。地域の方は、わが子ではないけれど自分の地域の子どもをなんとか育てようとする。それが、東京へ一旦出てもふるさとへ帰ってきたいという愛着を感じてくれるようなところにつながる。米原のよさを出していくという点では、お茶の間創造事業のお茶の間サロンのメニューとして、地域の子どもの見るというものがあったらいいのかなと思う。
市長	<ul style="list-style-type: none"> ・そこを政策として進めていきたいと思う。スポーツクラブも子どもの取り合いをしているような現実もあると聞いており、放課後児童クラブが飽和状態なら、例えば木曜日だけでもスポーツクラブでサッカーや野球で相手するなども考えられる。また、お茶の間創造事業のメニュー化は、高齢者にとっては生きがいややりがいにつながる。
教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・文化協会も高齢化で活動が縮小傾向にあるので、ある曜日は文化協会の活動があるからそこへ子どもが行けるということもいいのかなと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・サロンや趣味の活動の場所につながりがあって、そこから発展して生き生きとした活動の場になると、その方たちはまた外へ出やすくなる

委員	<p>と思う。そこから小学校の授業とかに支援に行きやすくなるし、知識を持っておられる方がたくさんおられるので、活かすことができるのではないかと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の教育力が低いということだが、逆に地域が出すぎると問題が出てくる。文言に書いてあるように学校・家庭・地域の連携が大事であって狙いをしっかり定める3者が調和していく必要がある。
市長	<ul style="list-style-type: none"> ・先に委員が言われたように子どもに関心を持つ大人や、子どもに関心を持っている地域を頑張って作る必要がある。事務局はここにこだわって米原ではどういうことができるのか調査をすること。 ・もう一点厳しいことを言うかもしれないが、答申の際にあった若い人たちが「あまり家庭、家庭と言わないで欲しい」という意見。これは本音としてわかり易いが、家庭の中で差ができてきているのではないか。今は圧倒的に共働き世帯が増えているので、なかなか父母と一緒に夕食を作ったり、食べたり、宿題を見てあげたりすることができない。家庭力に格差が出始めていることは事実であり、家庭教育について有効な施策を打さなければいけない。義務教育は平等に学力がつけられるべきだと思う。
事務局	<p>(2) 今後の教育施策について</p> <p>○ICT活用事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米原市教育センター調査研究委員会でICT教育についてアンケートを取りました。ICT活用で児童生徒の興味・関心を高められると答えた先生が、小学校では95%、中学校では87%いた。生徒の学力が向上するかという質問に対しては、小学校78%、中学校61%が向上するという回答であった。どのような場面でどのような効果あるのかに対しては、特別支援教育での視覚支援、タブレットを使っての動画再生や、コマ送り、例えば、体育の時間に子どもが運動している様子をフィードバックして良い点や悪い点を検証できること。情報の共有化というところでは、ノート等を映し全体で支援など。ICT活用が有効な授業としては、理科の調べ学習、算数・数学では、図形や関数の領域についてデジタル教科書が有効だという意見が多かった。ICTを促進するにあたり、必要な資機材については、電子黒板、タブレット端末などのハードの他に、ICT支援員を配置していただきたいという意見が約40%ありました。ICTの環境整備について望むことについては、Wi-Fiとタブレット端末の整備、電子黒板を全教室に配備、ICT教材（アプリ・デジタル教科書等）の充実。人材育成・研修については、ICT支援員の配備、教育センター等での研修の充実等が自由記述で多かった。 ・実際のICT授業（大原小学校5年生の社会科授業）について説明

<p>市長</p> <p>教育長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の課題とその解決に向けては、ステップ1、ステップ2、ステップ3と三段階で考えていってはどうかと思う。米原市では20代、30代の先生は結構使っていただいています、50代の先生はアンケート調査でも使っている先生は少なかった。今後の課題については、授業改善に向けての取り組み、また校内でICT推進リーダーなどを決め、ICT教育を進めていくことや、慣れないと使えないので研修を充実していくこと。校内における支援システムの充実などの意見がありました。 ・実際の電子黒板を用いて操作説明 <p>○英語教育推進事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際化が進展する中において、国際共通語である英語力の向上が極めて重要となっています。文部科学省は平成32年度から小学校5年生に英語科を新設し、3、4年生には外国語活動を教育課程に位置付けます。また、平成30年度からは現段階では内容がはっきりしていませんが、先行実施をしていくという方針が決定しています。そのため、米原市としては、英語教育の充実のために平成29年度には市内5校の小学校で教育課程特例校として、現在文部科学省に申請し、学校独自に教育課程を編成できるようにして英語科を新設します。現在の小学校での英語教育の状況は、5、6年生で外国語活動として週1時間の授業を行っています。また、1年生から4年生までは米原市独自で年間10時間の英語に親しむ授業をALTやMG Tにより行っています。来年度からは、教育課程特例校については、学校によって多少の時間数は異なりますが、各校とも英語科を新設して、5、6年生では年間60時間から70時間の授業を実施します。3、4年生では年間25時間から35時間、1、2年生では年間17時間から30時間の英語授業を行う予定です。また、モジュール学習として1年生から6年生までそれぞれの学年にあった10本程度のDVDを見て英語に親しむ授業を設けていきます。モジュール学習というのは、フェニックスといった綴りと発音の関係が良く分かるビデオや、ジャズチャンスといったスピーキング力を上達させるビデオなどを毎日視聴することで英語力をつけていく学習のことです。それを各学校が1週間のうちに4日ないしは5日実施する予定です。さらにホストタウン事業と関連して、SEA（スポーツ国際交流員）における体育の授業や部活動支援等を計画しています。 <ul style="list-style-type: none"> ・只今の説明について御意見を伺います。 ・ICTにしても英語教育にしても教職員の指導力がポイントとなる。このため、市をあげてICTの研修を行い、教職員の資質向上を行わなければいけないという思いを持っている。
----------------------	--

<p>市長</p>	<ul style="list-style-type: none"> 英語教育などの導入により、授業コマ数の取り合いが生じてくる。いろんな団体と出会う機会があり、その中で認知症の関係で活動している市民グループから、できるだけ若い時から認知症について学ぶ機会や経験が欲しいという要望を受けている。しかし、実態を聞いてみるとICTや英語教育もでてきた中で、国民的課題である医療や認知症の問題に関する授業を年度途中で組み入れる要望をしても全く相手にされない。予算編成どころか3月までに言っておかないと授業時間も確保できないということを聞いている。そういう意味ではどこかで選択をしなければいけない現状になっているのではないか。その辺はどうなのか。
<p>教育長</p>	<ul style="list-style-type: none"> まさにその通りです。すこやかタイムの10分間を入れなければいけないし、朝読書もしなければいけないし、モジュールで英語をしなければいけない。苦勞をして時間を埋めているのが実態であると思う。総合的な学習の時間を削って英語を入れているので、市長が言われたように認知症予防の授業については、総合的な時間から生み出すこととなります。
<p>市長</p>	<ul style="list-style-type: none"> これは地域の教育力の話と同じぐらいのレベルであると行政の立場としては考えている。市民が健康で長生きをする。健康で老後に入っていける。その時の最大のポイントが認知症である。このことについて米原市では市民運動的な取組をしており、学校と連携を取りたいという要求を受けている。そのことを教育現場でどうしていくのかについて議論をして欲しい。今日健康福祉部が来ているので発言をお願いします。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> これまでから小中学校をはじめ様々な福祉体験教育を実践していただいています。今後ますます増加が予測される認知症にスポットを当て、認知症サポーター養成講座について説明させていただきます。 15歳から65歳までの生産年齢人口が減少していく中で、高齢者人口が増加しています。米原市でも同様であり、年齢が5歳上がるごとに認知症になる確率が2倍に増えると言われていています。認知症の推計についても、各年齢の認知症有病率が一定の場合と糖尿病の治療がうまくできていない場合など各年齢の認知症有病率が上昇する場合の認知症の将来推計人口の差が174人ある。一人の認知症の方を支えるには多くの人とお金が必要ですが、これから先十分でないという現状があります。地域でも認知症の病気の理解とともに食事、運動、休息等の生活習慣の大切さなどを知っていただき、健康診断の受診や予防を含めて啓発を実施しているところです。中でもこれから大人になっていく子供たちが認知症という脳の病気がどうして起こり、接し方はどうしたらよいかなどを考えることによって、認知症を理解して対応する姿勢

	<p>を身につけることが大変重要な学習となると考えています。これがきっかけになり、脳の病気があるけれども心は生きているという人権の理解にもつながります。米原市では認知症の啓発の一つとして、認知症について正しく理解し、認知症のケアをする御家族を支援して見守る認知症サポーターを養成するために、認知症サポーター養成講座を開催しています。この養成講座では、認知症キャラバンメイトというボランティアの皆さんに実施をさせていただいており、受講された方には、認知症サポーターの証としてオレンジのリングを皆さんにお渡ししています。養成講座では認知症についての説明のほかにクイズや寸劇を通して、認知症の方への接し方などの理解を深めていただいて正しい知識と偏見を持たない人を一人でも増やし、地域の中で認知症の方や御家族を見守っていく地域づくりを目指しています。小中学生向けの養成講座については、資料をもとに講座を実施しています。だいたい授業 1 コマ分ぐらいの時間でパワーポイントや人形劇、寸劇など含めて実施しており、市の保健師も同行しバランスのとれた食事が将来生活習慣病を予防して、それが認知症の予防にもつながるといった話もさせていただいています。子どもたちがそれを学んで地域の中で啓発していくことを期待しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内の小中学校の中でも双葉中学校は毎年認知症サポーター養成講座を実施していますが、市内全ての子どもが認知症の知識があり、子どもであっても支援の必要な人の情報を大人に伝え、認知症の人を支えることのできるまちにしたいと思っています。ぜひ全ての学校で認知症サポーター養成講座が受講できますように御協力をお願いします。
教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校と中学校市のどの辺の年齢で受講するのがいいのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・5年生以上の方がいいです。ただ、認知症の方と接触する年齢としては、幼稚園児の方が抵抗なく交流ができるということも聞いています。
市長	<ul style="list-style-type: none"> ・こういう要請がありますので、行政の立場から言うと、一人一人の健康や人生、地域と人とのかかわりの中で、学習としてしっかりとやるべきだと思う。しかも認知症サポーターは市民の活動なので、そういう人たちが教室に入って子ども達に接することや子どもに関心を持つ大人を増やそうということであれば、確かに現場としては、何コマの授業を取り合っているということを知っているが、ぜひ教育長が先頭になって年間で全てを対応するのは難しいかもしれないが、2年、3年かけて全小中学校に一回りできるようにしていただきたい。授業計画はいつごろ作成されるのですか。
教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・だいたい12月から3学期の終わりにかけて行うので、1月の管理職会議で提案をすれば間に合うと思います。

市長	<ul style="list-style-type: none"> ・聴覚障害や視覚障害などの福祉教育もある。
教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・学校によっては福祉施設へ1、2日の体験に行っている学校もあるので、入れられないことはないのかなと思う。ただ、小学校・中学校の両方となる難しい面もあるが、メニューは一緒なのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストが少し違います。小学校・中学校のどちらかで1回受けていただくことが大事です。
市長	<ul style="list-style-type: none"> ・総じて言えることは、学校と地域と家庭が連携しましょうと言い始めているが、今までの学校教育として教室の中でしていないものが入っていくことも学校としては受け入れて欲しいし、反対に学校に大人が近づく、関わっていく仕組みを研究してやってもらいたい。米原では当たり前のように認知症サポーターの話を義務教育の間に一度はやっているとか、認知症だけでなく、手話や、ハンディを持っておられる方の生き方や暮らし方について共感をするようなことが、市民に対する情報として学校から出ることが、学校に対する関心が高まることにつながる。是非進めて欲しい。
教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・全市展開として、例えば全中学校で1回するとか、双葉中学校が毎年実施しているという実績があるので中学校から考えていきます。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・何回か前の定例教育委員会で長浜市の田野小学校の例を出して認知症サポーターをしてはどうかと言っていましたが、米原市でも平成22年度から実施していると聞いて、勉強不足であると思った。実はわが社でも社員が認知症サポーターを3年計画でお世話になっており、必要なものだと思う。この前学校訪問したときも防災教育をやっていた。このようなことを、学校現場ではなくてオフサイドで何かできないか。教育長が言われたように放課後児童クラブのような地域の学校というようなところですか、私が所属している子ども会でなど、オフサイドでフォローし合えるような仕組みができないのか考えている。
	<p>4 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なし
	<p>5 閉会</p>